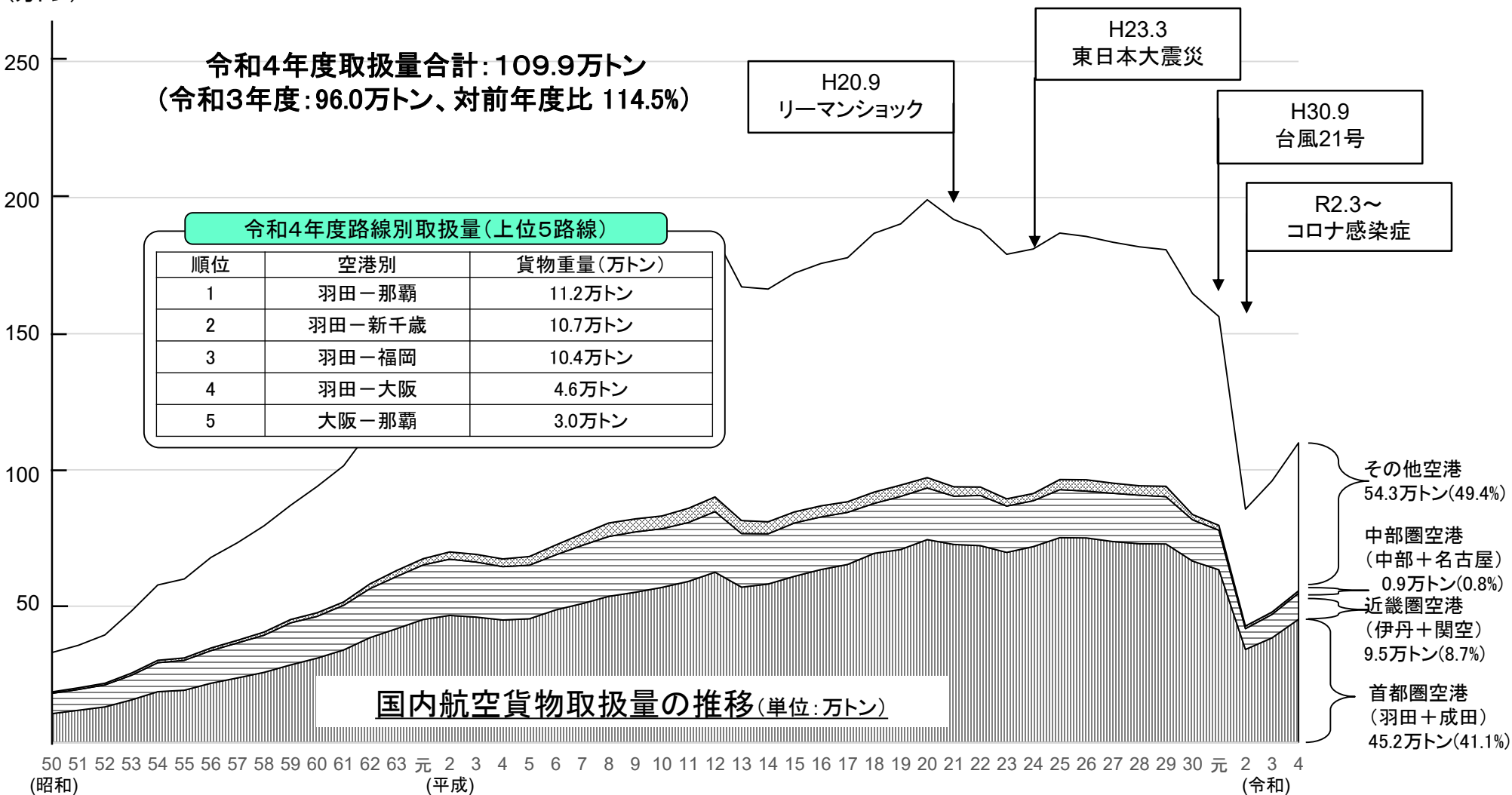


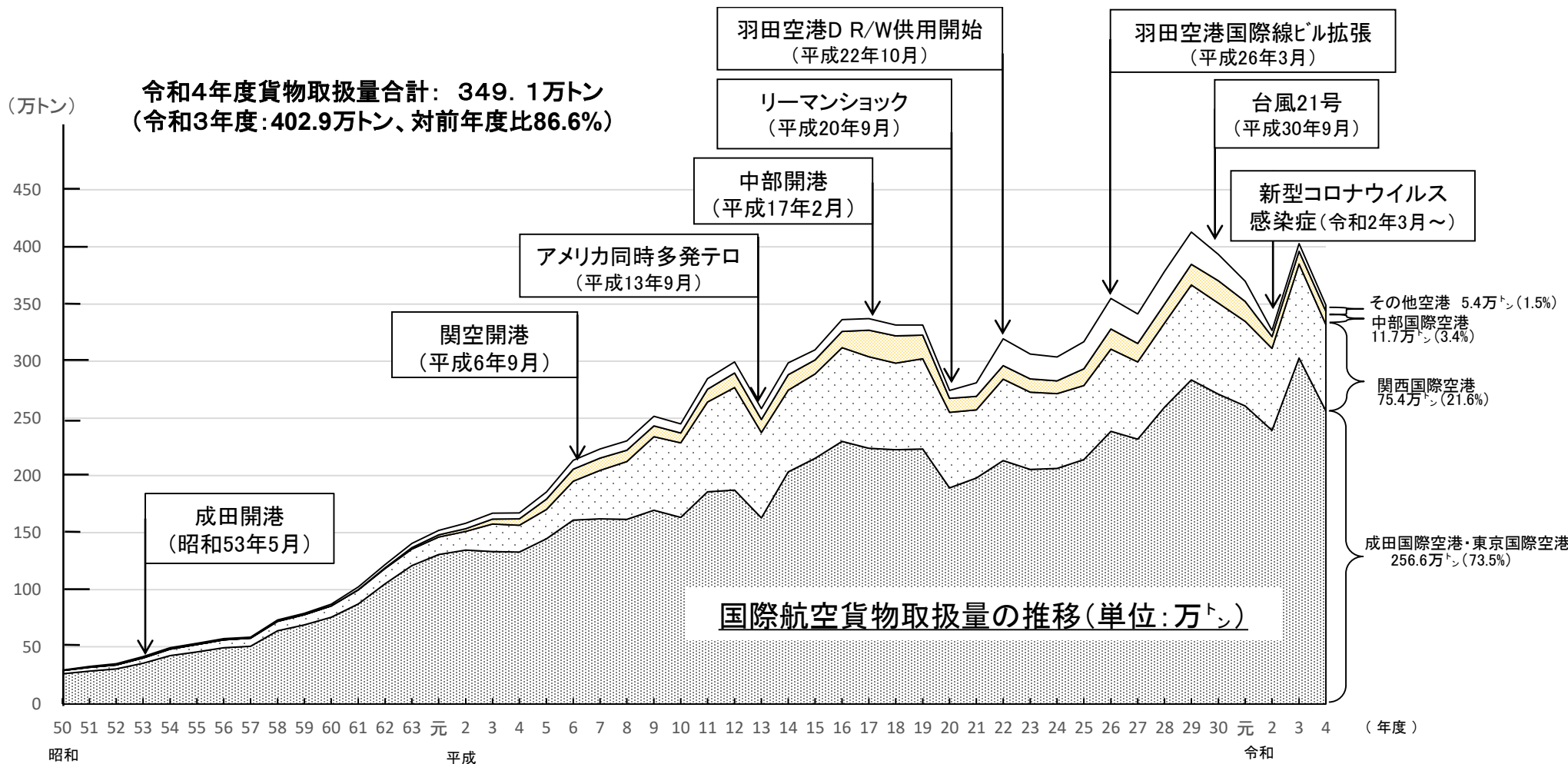
○ 我が国の国内航空貨物取扱量は、機材小型化や路線撤退等に伴い平成20年度をピークに減少。羽田空港の航空貨物取扱量増加の影響等により回復に転じたものの、ここ数年は減少ぎみであり、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の流行の影響により大幅に減少。令和3年度からは貨物需要の高まりを受けて回復。

(万トン)



※ 航空輸送統計年報(国内定期航空空港間貨物流動表)より作成

- 我が国の国際航空貨物取扱量は、平成13年の米同時多発テロや平成20年のリーマン・ショックによる落ち込みから回復・増加し、平成29年度をピークに大規模自然災害の発生や米中貿易摩擦の影響、さらに新型コロナウイルス感染症の流行の影響により減少。令和3年度は貨物需要の高まりを受けて増加したが、令和4年度は海運の正常化や中国経済の停滞などを受け減少。
- 首都圏空港（羽田空港と成田空港）の航空貨物取扱量は全体の7.3割を占めている。



注1) 関西国際空港開港以前は、大阪国際空港における貨物量を示す。
注2) 中部国際空港開港以前は、名古屋空港における貨物量を示す。